

ボランティア情報紙

「わ」

～人と人とのつながりを大切に～

このボランティア情報紙『わ』では、聖ヨゼフ園にボランティアに来ていただいている方々の紹介や聖ヨゼフ園と地域の方々との交流の様子などを掲載していく予定です。

人と人が出会えた瞬間に「わっ！」と感動し、そこに自然と「輪」ができる、そして人から人へとその“輪”が広がり、その輪の調和がとれた瞬間…「和」となる。「人と人とのつながり」を大切にしたいとの思いから、この情報紙名にしました。

ボランティアさんへのインタビューコーナー

現在、当園にボランティアとしてお越しいただいている方々に質問をするコーナーです。第1回目は、『たんぼぼの会』会長 庄島美智子さんにお話を伺いました。



庄島美智子さんのご紹介

生まれも育ちも大刀洗町。平成9年に「たんぼぼの会」を結成し、会長を務めています。現在も大刀洗町のボランティア団体の一つとしてご活躍中です。また、町のボランティア連絡協議会の委員や当事者の会への参加など、町で庄島さんを知らない人はいないほど、精力的に活動されています。

質問1:たんぼぼの会、結成秘話を教えてください。

庄島さん:たんぼぼの会は、平成9年度日本赤十字社主催・家庭介護教室の受講生が「学んだ事を生かしたボランティア活動ができないだろうか」との思いで会を結成、平成10年から大刀洗町の施設で活動をスタートしました。聖ヨゼフ園との出会いは、聖ヨゼフ園に勤務していた友人が会の活動を知り、協力を求められたのがきっかけでした。「地元のためにも何かさせてもらおう」との気持ちで、当時人の手の入っていない庭の草取りから始め、やがて花を植えるようになり、朝6時から作業に入り、職員の方たちが出勤されるころには失礼する、という活動をしばらく続けていきましたが、あるとき地域福祉部スタッフの知るところとなり交流が生まれました。それを機に活動も屋外から室内に入り、洗濯物たたみや入所者の方とのお話し相手や作業の手伝いをさせていただくようになりました。現在会員は9名。発足から15年目を迎えますが「笑顔を忘れない、勉強に来させている、ボランティアに年齢はない」をモットーにがんばっています。

質問2:ボランティア活動を通して感じることを教えてください。

庄島さん:ボランティア活動は本当に楽しいです。勉強させてもらっています。利用者の方々が一生懸命頑張っている姿を見て、自分達の努力のなさを感じていますし、ボランティアだからといって責任がないのではなく、余計に責任があると感じています。また、帰り際に「ありがとう」と言われると、もうそれ以上のお土産はありません。反省会する時も喜びだけです。まだまだ自分には足りていない、何でも挑戦したい!!人の役に立ちたい!!人が出来ることは自分にもできる、何でも気一つだと思っています。

質問3:これからボランティアを始められる方にメッセージをお願いします。

庄島さん:今、何でも頑張ってください。自分が意識していなければ何を与えられても意味がありません。ボランティアをする上で一番大切なのは、「笑い」だと思います。相手に心を開いてもらうためには時間をかけていきましょう。必ず心が通じてきますから。

庄島さん、心に染みるお言葉の数々、ありがとうございました。



災害時におけるボランティア活動



「天災は忘れたころにやって来る」と言われますが、昨年3月11日の東日本大震災以降、日本各地で地震や豪雨など自然災害が相次いでいます。その際、何か自分に出来ることはないかと、自発的に行うボランティア活動は、被災地における多様なニーズに対応する上で重要な役割を果たしています。災害ボランティア活動するにあたり注意すべきことがあります。留意事項を紹介いたします。

災害時のボランティアの留意事項

- 1) 自分自身の自立
事前に現地の状況把握し、必需品を確認・調達。自活できるように自分で準備すること。
- 2) 状況を把握
現地の災害対策ボランティア現地本部等に参加しオリエンテーションを受けて、詳しい現地の状況把握と自分の活動内容や役割を確認する。原則としてチームで活動を行う。
- 3) 意思の尊重・疎通
活動は「～してあげる」のではなく、被災者の意思を尊重して「お手伝いさせていただく」気持ちで行動し、意思疎通を図る。

4) 考えた行動

自分のできること、出来ないことを考えて無理のない活動をするのが大切。原則としてチームで活動を行い、問題発生時は個人判断せずチームで相談、または現地本部に相談する。

5) 被災者のプライバシーの保護

6) 健康管理

ケガや病気、事故に注意し、過労や睡眠不足に注意する。

7) 保険の加入

災害ボランティアといえば泥の除去や家の片付けなどの力仕事をイメージしがちですが、避難所の掃除、炊き出しや被災者のおしゃべりなどのふれあいも被災地では喜ばれており、他に寄付などでの支援もあります。留意事項を考慮し、自分にできることでのボランティア参加が大切ではないでしょうか。被災地の街の復興、そして、被災された方々の心の復興が一日も早くなされますようにお祈りいたします。

引用資料:石川県県民ボランティアセンター 災害時支援マニュアル

第40回 聖ヨゼフ園運動会



平成24年9月8日(土)に、第40回聖ヨゼフ園運動会が開催されました!!

この日は116名の利用者・保護者・職員・ボランティアの皆様とたくさんの方が集まり、大賑わいでした!

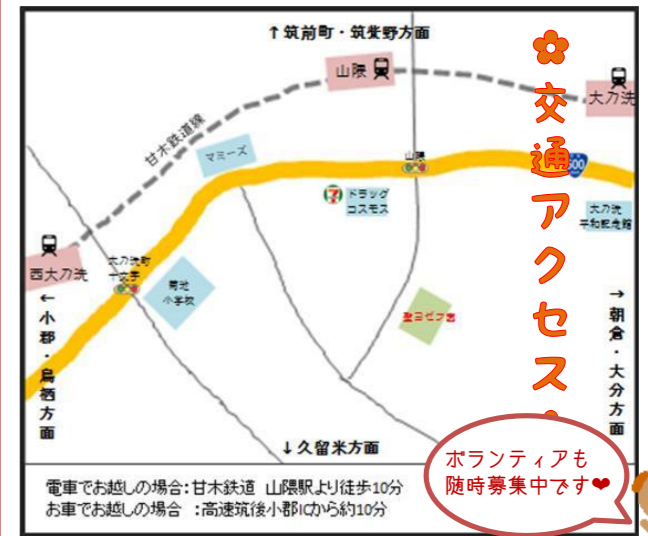
毎年運動会には、来賓としてボランティアの皆様にお越しいただいています。今年も9名の方にお越しいただきました。「がんばれー!!」と大きな声援を送ったり、競技に出場したりしてくださいました。最後には全員で「大刀洗音頭」を歌って踊って…会場がひとつになりました!(上記の写真は大刀洗音頭の風景です)

ボランティアの時には見られぬ、利用者や職員の表情や姿を見ることが出来たよかったです感想をいただきました。ボランティアの皆様が来てくださったことで、会場も盛り上がり、利用者も本当に喜んでいました。

ボランティアの皆様 ありがとうございました!!

編集後記～ある入所者の方のお話～

その方は、いつもボランティアさんが見えになる日をご自分の小さなカレンダーに書き込んでおられます。そして、そのボランティアさんが見えになる日には、ボランティアさんが見えになるよりも早く、活動場所に来られ「ふん、間に合ったー!まだ来てないよね?」と嬉しそうに待っておられたり、曜日が決まっている個人ボランティアの学生さんのことは、「水曜日のお姉さんは今週末?」と心待ちにしておられます。このように、ボランティアさんのお会い出来る日を心から楽しみにしておられる方が当園にはこの他にも沢山おられます。私たち職員は、入所者の方とボランティアさんとの間に“絆”のようなものが見え、時折、羨ましく思えます。こうして、人と人との出会いがお互いの人生の喜びや幸せにつながるって素晴らしいと思うしみじみ思う今日この頃です。 本



- 発行元: 社会福祉法人 慈愛会 聖ヨゼフ園
- 住所: 三井郡大刀洗町山隈374-1
- 電話: 0942-77-1393
- 編集: 地域福祉部
- メール: volun@jiaikai-fuk.or.jp

